

C 共感的な人間関係の育成

共感的な人間関係を育成するために、授業の中でどのような活動を取り入れているのか、2年生の道徳の授業をグループで参観した。その中で、聞く態度・子ども同士の認め合いにフォーカスを当て、各学級でも取り組んでいることを振り返った。

話し合いをするための教師の準備



- ・話し合う視点の提供
- ・子どもたちの話したい気持ちを高めるための授業までのしかけと意図的な発問
- ・適切な準備



子ども同士がお互いのことを認め合い、
安心して話し合える雰囲気作り

- ・聞く側の態度
- ・教師も子どもの発言にしっかりと耳を傾ける



子どもの聞く態度を大切に

- ・相手の目を見て話を聞く
- ・うなずきながら
- ・相手の話に反応する
- ・よい聞き方を誉める

1 年

入学当初から、聞く＝「話している人を大切にすること」と伝え、お互いを大切にすることを心掛けている。また、友達の意見に対して、返す言葉を固定せず、「いいな。」と思う意見に「それいいね。」「なるほど。」とつぶやける環境を大切にしている。



2 年

普段の授業だけでなく、学校行事なども通していいところ見つけを積み重ねてきた。はじめは表面的なことを伝えていましたが、今では深みのある内容を伝え合うことができるようになってきた。また、直接伝え合うだけでなく掲示板を活用することも効果的だった。



キラキラスマイル
で、見せるまで
友だちになろう
と頑張る

聞く態度 子ども同士の認め合い

6 年

学級をよりよくするために、みんなでしたいことや話したいことを、「学級会」で話し合った。いろいろな意見の違いを認め合い、折り合いをつけるなどして、みんなの考えをまとめ、合意形成を図る。



ゆめいろ学級

「にこにこ すごろく作り」を行った。友だちへの質問を自分たちでマスに書き協力するゲームを考え相互理解を図った。友だちが答える質問に耳を傾ける姿が見られた。



- ・子どもたちのよい聞き方、認め合いをしている様子を観察してみると、どう感じるのかを考え、あらゆる角度から「聞き方」について考えさせたい。
- ・「なぜ相づちを打つのか」「なぜうなずきながら聞くのか」を子どもたちに問うことで、話を聞くときの「気持ち」に焦点を当てて考えることができる。そこからよい聞き方を実感的にとらえさせたい。